

講演会ご案内

アンコール遺跡の考古学史にみる 復原の思想：起源としてのドラポルト

講師 藤原貞朗氏(茨城大学人文学部)

植民地主義時代と考古学をテーマに、『オリエンタリストの憂鬱』著者である藤原貞朗氏をお迎えし、次のような講演会を開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。なお本講演会は、東南アジア考古学会との共催です。

講演概要(講師より)：

『オリエンタリストの憂鬱』に書かれた植民地時代のアンコール遺跡の考古学史を、「復原」をキーワードに要約します。19世紀末のドラポルトの復原図、フランス極東学院による初期のアンコール・トムの復旧活動、1930年代のバンテアイ・スレイにおける「アナスティローシス」に基づく修復事業等を取り上げ、かつての復原の理想について考えます。とくに目新しい知見を披露するわけではございませんが、遺跡の復原図や古写真など多数の図版資料をみなさまに見ていただき、忌憚のないご意見頂戴したく思います。

参考図書

藤原貞朗

『オリエンタリストの憂鬱：植民地主義時代のフランス人東洋学者とアンコール遺跡の考古学』めこん、2008年11月。

開催日時、場所

2009年4月29日(水)
14時半～16時
上智大学2号館5階510会議室
(事前予約不要)

問い合わせ先

上智大学アジア文化研究所
丸井 m-masako@sophia.ac.jp

上智大学アジア文化研究所